

2026 年 2 月 2 日
株式会社紀伊國屋書店

「紀伊國屋じんぶん大賞 2026 読者と選ぶ人文書ベスト 30」を発表

株式会社 紀伊國屋書店（代表取締役会長 高井 昌史）はこのたび、「紀伊國屋じんぶん大賞 2026 読者と選ぶ人文書ベスト 30」を発表いたします。

2010 年に始まった「紀伊國屋じんぶん大賞」は、「読者の皆さまと共に優れた人文書を紹介し、魅力ある『書店空間』を創出したい」との思いから立ち上げた企画です。

本年も多くのご応募と推薦コメントをお寄せいただき、読者の皆さまからの投票結果をもとに、紀伊國屋書店社員 16 名の選考委員による持ち点評価を加え、事務局にて集計のうえベスト 30 を選定いたしました。

◆「紀伊國屋じんぶん大賞 2026」 読者と選ぶ人文書ベスト 30

1 位	斜（なな）め論——空間の病理学	松本卓也	筑摩書房
2 位	会話の 0.2 秒を言語学する	水野太貴	新潮社
3 位	クィア・レヴィナス	古怒田望人／いりや	青土社
4 位	庭の話	宇野常寛	講談社
5 位	生きることなぜ、たましいの傷が癒されるのか 紛争地ルワンダに暮らす人びとの民族誌	大竹裕子	白水社
6 位	人びとの社会戦争——日本はなぜ戦争への道を歩んだのか	益田肇	岩波書店
7 位	カウンセリングとは何か——変化するということ	東畑開人	講談社
8 位	性／生（SEI）をめぐる闘争	福永玄弥	明石書店
9 位	内在的多様性批判——ポストモダン人類学から存在論的転回へ	久保明教	作品社
10 位	アセクシュアル アロマンティック入門——性的惹かれや恋愛感情を持たない人たち	松浦優	集英社
11 位	生き物の死なせ方——共生・共存からはみ出した生物たちの社会学	渡邊悟史	ナカニシヤ出版
12 位	食権力の現代史——ナチス「飢餓計画」とその水脈	藤原辰史	人文書院
13 位	ケアと編集	白石正明	岩波書店
14 位	誤解を招いたとしたら申し訳ない——政治の言葉／言葉の政治	藤川直也	講談社

15 位	空の時代の『中論』について	清水高志	IAAB EDIT
16 位	現実性の極北——「現に」は遍在する	入不二基義	青土社
17 位	物語化批判の哲学——〈わたしの人生〉を遊びなおすために	難波優輝	講談社
18 位	到来する女たち——石牟礼道子・中村きい子・森崎和江の思想文学	渡邊英理	書肆侃侃房
19 位	名著でひらく男性学——〈男〉のこれからを考える	杉田俊介／西井開／川口遼／天野諭	集英社
20 位	死刑について私たちが知っておくべきこと	丸山泰弘	筑摩書房
21 位	現代ストリップ入門	武藤大祐／夏堀 うさぎ [編著]	書肆侃侃房
22 位	可視化される差別——統計分析が解明する移民・エスニックマイノリティに対する差別と排外主義	五十嵐彰	新泉社
23 位	僕たちは言葉について何も知らない——孤独、誤解、もどかしさの言語学	小野純一	NewsPicks パブリッシング
24 位	生類の思想——体液をめぐる	藤原辰史	かたばみ書房
25 位	「あの戦争」は何だったのか	辻田真佐憲	講談社
26 位	メディアが人間である——21 世紀のテクノロジーと実存	福嶋亮大	blueprint
27 位	呪文の言語学——ルーマニアの魔女に耳をすませて	角悠介	作品社
28 位	シュリック教授殺害事件——ウィーン学団盛衰史	デイヴィッド・エドモンズ／児玉聡・林和雄 [監訳]	晶文社
29 位	列島哲学史	野口良平	みすず書房
30 位	共依存とケア——ふるいかけられる声を聴く	小西真理子	青土社

※2024 年 11 月以降に刊行された人文書を対象とし、2025 年 11 月 1 日～11 月 30 日の期間に読者の皆さまから投票を募りました。本企画における「人文書」とは、「哲学・思想、心理、宗教、歴史、社会、教育学、批評・評論」のジャンルに該当する書籍（文庫・新書を含む）を指します。

◆「紀伊國屋じんぶん大賞 2026」フェアは、2026 年 2 月 1 日（日）より全国の紀伊國屋書店グループ店舗およびウェブストアにて開催しております。各作品に寄せられたコメントを掲載の小冊子も店頭にて配布しております。

※特設ページはこちら→ <https://store.kinokuniya.co.jp/event/kinokuniya-jinbun-humanities-awards/>